

二〇一二年度 光塩女子学院中等科 【第三回】

国語入試問題

二〇一二年二月四日（金）実施

《注意事項》

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- ② 解答用紙に、受験番号（漢数字・算用数字どちらでも可）と氏名を書きなさい。
- ③ 解答は、解答用紙に書きなさい。
- ④ 記述問題の字数については、すべて句読点をふくみます。

〔一〕次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「二二世紀のうちに、まちがいなく人間は火星に住むようになるだろう」という確信を得たのは、スペースシャトルによる宇宙飛行から帰還して、一ヵ月ほどたつたときのことでした。

忙しい訓練のため、ゆっくり室内と買い物に出かけることはほとんどありませんでしたが、任務を終えて、久しぶりにヒューストンにある「アクセサリーショップ」という店で買い物をしているときのことでした。

この店では、模擬した精巧な自然が売りものです。それまで、造花やほんものに似せたプラスチック製の日常生活用品など、なんとなく軽蔑していたのですが、ほんものとにせものとが、私の五感では区別がまったくないほどに、①商品が進化していましたのでした。庭を模擬した一画には見せかけの温室があり、そのなかにあるすべての植物は精巧なつくりものです。ほんものの温室のように、ムツと暑いわけではありません。空調の効いた快適さで、ほんものと同じ熱帯植物をア賞できるのです。

もちろん、これらの植物は呼吸をしたり、養分や水を土からとったり、ましてや枯れたりすることもありますが、めんどうな手入れをする必要がありません。生きものを飼うことは、②自分の毎日の時間が拘束されます。それを怠ると病気になつたり、あるいは死んだり、また雑草が生えたりして、さらにめんどうな仕事が増えてしまいます。

お客様の多くは、主婦やキヤリアウーマンと思しき人たちで、店内がにぎわっています。どの人も、嬉々として見たり触つたりしながら、買い物を楽しんでいます。造花を使っての生け花デモンストレーションもあります。生花と同じように、一本一本はさみで切っては、茎の方向、花の向きを整えながら、剣山に刺していきます。必要ならば花器に水を張ることもできます。

驚いて思わず立ちどまつたのは、ドライフラワーのコーナーでした。本来、花などの植物を長もちさせるため、上手に枯らして水分を抜き、飾りものとして美しさを保つのがドライフラワーですから、生物としては死んでいるか、ほとんど乾燥して③物質になつてゐる状態です。何百種類と置いてあるドライフラワー、たとえほんものでも水分がありませんから、まるで造花と同じ感触です。目を近づけてチェックをしても、手ざわりで丹念に調べても、ほんものと区別がつきません。造花の必要のないと思われるドライフラワーでさえ、じつは精巧なまがいものだったのです。これも一本ずつ、あるいは束にして形を整え、生け花に添えます。値段もけつこう高いのですが、大繁盛です。

ソファーに座り、家の買い物を待ちながら、目の前にある、これも（あ）ほんもの以上においしそうに見え、香りが漂つて

きそうな飲みかけのにせコーヒーカップを前にして、考えこんでしました。

そして、気づいたのです。多くの大人がほんとうに望んでいるのは、バー・チャルリアリティではなく、実体感のともなう、しかし自分をけつして侵食しない、意識を快適にする環境なのだと。

この瞬間、子どもはもちろんのこと、宇宙飛行士ではない大多数の大人も、実際に火星に住めるという考えがひらめいたのでした。

しかも、④先進国といわれる都市の住人ほど可能性は高そうです。毎日エアコンの効いた狭い空間に住み、地下やビル内の窓のあかない、ほとんど人工環境しかない職場でパソコンのスクリーンを見ながら仕事をし、ファーストフードを食べておいしく感じ、カラオケを唄つてストレスを解イする典型的な現代人。これはまさに、将来月や火星に移ウできる人々を訓練しているのではない

かと思われるほどです。

⑤複雑な思いを胸に、買い物に満足した家内と店から出たときでした。ガラスドアの表にも、ほんものの花で束ねたと見まちがうほどの美しいリースが飾つてあります。家内が「チョウが止まっている」というので、「おそらくせものだらう」と思いながら、そのきれいなチョウに触ろうとしたときでした。羽がパタパタと動きました。こんなに凝つた動く模型があるのかと疑いながら、つかもうとすると、パタパタしながらリースの別の花へ逃げるではありませんか。そしてまた安心したように止まっています。

(い)ほんものだつたのです。一時間後、気になつてふたたび見に行きました。まだ止まっています。三時間後、別な花に止まつていました。四時間後、ようやくどこかに飛んでいつてしましました。

—国2—

花から出る蜜も、卵を産みつける適当な場所もないはずです。あまりに驚いたので、生物学者に聞いてみました。チョウは紫外線も含めた花の色にひじょうに敏感とのことでした。それでも、四時間もにせものの花と戯れる理由があつたのでしょうか。人間がつくりだしたにせの花には、昆虫にとっての栄養分はありません。本能も「まかされたとしたら、待っているのは死のみです。私たち人間は、自分でつくった人工物に工界があることを知つていています。それでも、大多数の人間は快感を求めて、意識や認識がかんたんに「まかされる方向を選択する」ようです。ときには、そのまま死に至るまで、現実を本能で知ることもなく、最期を迎えます。しかし本能で生きているはずの昆虫でさえ、だまされる時代がはじまつたのです。

人間が生み出した科学技術は、人類が生きのびるために生みだした知恵のひとつです。その本質を理解するためには、個人が日

常のなかで、科学技術を知識としてばかりでなく、直感的に受けとめることができるようになることが必要です。そのために、社会が⑥科学技術を文化として浸透させる必要性がありそうです。

(毛利衛『宇宙からの贈りもの』による)

※家内…妻。 ヒューストン…アメリカの地名。 模擬…他のものにまねること。

拘束…自由を制限すること。 キャリアウーマン…第一線で働く女性。

デモンストレーション…上演。

剣山…生け花の道具。

丹念に…細心の注意をはらつて丁寧に。

まがいもの…にせもの。 バーチャルリアティ…仮想現実。 コンピューターの作り出す空間を現実であるかのようにとらえたもの。

侵食…ふみこんでそこなうこと。 戯れる…遊ぶ。

本能…生まれつき持っている能力。

最期…いのちの終わる時。

浸透…いきわたること。

精巧…細かいところまで正確にできている様子。

嬉々として…うれしそうに。 喜び楽しんで。

おぼ…おぼつかない。 たんねん…たんねん。

問一 空欄ア～エに適切な漢字一字を入れなさい。

問二 (あ)・(い)は、本文のどの部分の内容の説得力を持たせるための例ですか。(あ)・(い)について記した説明の空欄

に本文中から指定の字数の部分を抜き出し、最初と最後の五字を書きなさい。

(あ)人々が(三十五字)を望んでいることを示すための例。

(い)(三十字)ことを示すための例。

問三――①「商品が進化していた」とは、どういうことですか。本文の言葉を用いて言い換えなさい。

問四 ――②「自分の毎日の時間が拘束されます」とありますが、「拘束」は何によって起こりますか。本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問五 ――③「物質になつてゐる状態」とありますが、どのような状態ですか。次の空欄を二字以内の語を考えて補い、答えを完成させなさい。

- ・水分が抜けて（　　）のない状態

問六 ――④「先進国といわれる都市の住人ほど可能性は高そう」なのはなぜですか。最もよくあてはまるものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 先進国には優れた技術者が多く、科学技術が発展していく開発が進んでいそだから。
イ 先進国では環境の悪化が進み、地球での生活が困難になる時期が早そだから。
ウ 先進国では人工的な環境での生活に慣れていて、地球外で暮らしても違和感がないわから。
エ 先進国に住む典型的な現代人は、すでに地球以外の場所で生活する訓練をしていそだから。

問七 ――⑤「複雑な思い」とありますが、筆者はなぜそのような思いを抱くのですか。それを説明した次の文章の空欄にあてはまる言葉を本文中から二字でそれぞれ抜き出しなさい。

- ・人間が科学技術によつて生み出してきたものは、現代人の生活を1にしたが、このまま2的に作られたものの中で生きていくような未来を求めるべきなのだろうかと、立ち止まつて考えさせられているから。

問八 次の文章は本文とは別の箇所から引用したもので、科学技術に対する筆者の考えが記されています。これを参考にして、
——⑥「科学技術を文化として浸透させる」の説明として最もよくあてはまるものを後の選択肢ア～エから選び、記号で答えなさい。

〔文章〕

科学技術はあくまでも人間の道具であつて、それ自体が目的ではありません。何が目的かというと、私たちがよりよく生きていくためだと思うんです。よりよく生きていくためというのは、科学技術ばかりではなくて、いろいろなものがあるわけです。芸術もあるし、法律やスポーツもあるし、すべてのものが、少しでも私たちが生きやすくなるためにあるわけです。法律などは制約を強めている部分もありますが、本質的にはそうではなくて、住みやすい環境にしていくことだと思うんです。そういう意味で、科学技術も一つの文化にすぎないのであって、ほかの芸術を大事にするのと同レベルで、科学技術も考えないといけない。

〔選択肢〕

- ア 科学技術は人間がよく生きるための知恵の一つであることを皆が知るようにすること。
イ 科学技術によって人間の生活が成り立つように皆で努力するようにながすこと。
ウ 科学技術は人間の健康を維持するために必要なものであると皆に広めること。
エ 科学技術が人間の生きる目的となるように生活を改善しようと訴えていくこと。

問九

- ――『二世紀のうちに、まちがいなく人間は火星に住むようになるだろう』という確信を得た」とあります。筆者が確信を得るに至った根拠を示したうえで、筆者の確信に対するあなたの考え方を書きなさい。根拠と考え方をあわせて三行以内とします。

二 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

“知識”と智慧^{※ちえ}

いま、「先進国」では「IT革命」が急速に進んでいます。“IT”というのは “information technology” つまり「情報（通信）技術」のことです。

確かにITをはじめとするさまざまな文明の（あ）利器の発達により、“昔”とは比較にならないほどの容易さで、多量の情報を得ることが可能になり、その結果、現代人は“昔”的な人間とは比較にならないほど多量の知識、情報を持っています。

今までに人類が獲得した情報収集手段を歴史的に、また極めて概略的に列挙しますと、直接観察・見聞→書籍→ラジオ（音声）→テレビ（音声と映像）→インターネット（マルチメディア）となります。これは、そのまま、情報収集の「効率」と「容易さ」の向上の順番です。

まず、書籍のお蔭で私たちは時間（時代）と空間（地域）を超えた情報を得ることができるようになりました。さらに、活字と印刷術の発明は情報を量ばかりではなく、時間的、空間的にも著しく（い）カクダイしたのです。そして、テレビは人類の知識を飛躍的に増大させました。最近は、パソコンあるいは携帯電話を通じてインターネットを利用すれば、ありとあらゆる情報が瞬時に、極めて容易に得られるようになっています。

しかし、人間の脳の活動と“情報の意味化”において、文字メディアとテレビのような映像メディアとは根本的に異なります。文字メディアの場合、まず文字を、そして読むことを学び、（う）シユウトクしなければなりません。また、文字というそれ自体は具体的な“像”を持たない記号の羅列である文、文章から場面や状況や内容を自分自身の頭の中で具体化しなければならないのです。自分自身による“想像”、組み立ての作業が必要なのです。そのためには“心の眼”が不可欠です。

ところが、テレビのような映像メディアは、具体的な像を音声つきで与えてくれます。①自分自身による“想像”的な作業は不要なのです。したがって、その分、知識の增量は容易で迅速でもあるわけです。

この“想像”的な作業が必要であるか否かは、脳の活性化、智慧の発達のことを考えれば、決定的な違いです。ITの発達によって、人は知識を飛躍的に増したのですが、それに比例して智慧を低下させたように思われるのです。智慧は自分の頭で考える、とによって身につく能力だからです。ちなみに“知識”は「ある事項について知っていること」で、“智慧”は「物事の道理を悟り、適切に処理する能力」です。

もちろん、情報収集手段が直接観察・見聞や書籍などに限られていた“昔”は知識の②多寡がその人物の価値を決める大きな要素でした。“もの知り”は大きな価値を持つていましたし、尊敬もされました。しかし、現在のようにITが発達した社会では、

知識の多寡については、人間がどのように頑張つても、膨大な記憶量をもつパソコンやインターネットに絶対にかなわないのです。つまり、人間の価値として、知識の多寡は大きな意味を持たないのです。人間の価値は□の多寡にかかっているのです。

フランスの思想家・モンテニユが「知識がある人はすべてについて知識があるとは限らないが、有能な人はすべてについて有可能である」といっていますが、その通りです。また、ニュートンと並び称される物理学者・アインシュタインは「想像力は知識よりも重要である。知識には限界があるが、想像力は世界を包み込むことさえできるからである。」といっています。

私は、みなさんに、世界を包み込むことさえできる想像力、物事的道理を悟り、適切に処理できる智慧を身につけていただきたいと思うのです。このような想像力や智慧は、教科書を暗記しただけでは決して身につかないのです。今までに何度も述べました『筋道立てて考える』ということこそ智慧の真髄なのです。

“考える”ということ

もちろん、私は「知識は不要である」などといっているのではありません。私たちが『勉強』によって学ぶべきことは、『考える』基礎となる『普遍的な土台』です。③知識は大切です。しかし、教科書に書いてあることを、そのまま機械的に暗記しても（テストの好成績にはつながるかも知れませんが）、それだけでは何の役にも立たないのです。

誰にとつても「暗記」は楽しいことではありませんが（少なくとも私は大嫌いです）、「自分の頭で考えること」は楽しいし、人生を豊かにしてくれます。つまり、智慧は人生を楽しく、豊かにしてくれるのです。また、智慧の1「有無」は人生の「2成否」を分けることも確かです。念のために書いておきますが、ここで私がいう人生の「成否」の要素は「出世」できるかどうか、「金持ち」になれるかどうか、というようなことではなく（そのようなことも人生の「成否」の一要素であることは確かでしょうが）、人生の3充実ぶり、4物心両面の（究極的には心の）豊かさのことです。

ところで、今まで何度も“考える”という言葉を使って來たのですが、じつは、④“考える”ということとは、それほど簡単なことではないのです。“考える”ことの難しさは□ Y □に直結します。

いくつかの国語辞典を調べてみると、“考える”はさまざまに説明されていますが、私が考える“考える”に一番近い説明は「経験や知識を基にして、未知の事柄を解決（予測）しようとして、頭を働かせる」〔新明解国語辞典〕です。“考える”基本は“経験”と“知識”です。それらを“基”にして“頭を働かせる”のが“考える”です。堂々巡りのようですが、この“頭を働かせる”というのがまた厄介です。

日本の代表的“知性”ともいえる小林秀雄は「“考える”とは物に対する単に知的な働きではなく、物と親身に交わることだ。

物を外から知るのではなく、物を身に感じて生きる、そういう経験をいう。」といつています。「」でも、やはり「経験」が大切です。もちろん、誰でも「経験」は持つのですが、それが漫然（まんぜん）とした「経験」では「考える」基本にはならないのです。

私は、「考える」原動力は「疑問を持ち続けること」だと思つてゐるのですが、じつは、ゲーテが「人間に知的な欲求がはじめで萌してくるのは、その人間が重要な現象に眼を留め、注意を惹かれた時である。この知的な欲求が持続するためにはさらに深い関心が生じて来なければならない。」といつていますように、「疑問を持ち続けること」は簡単なことではないのです。

つまり、問題は「その人間が「重要な現象」に眼を留められるかどうか」なのです。さらには「知的欲求を持続する」ためには、まず「持続」^{⑤以前}に、「知的欲求を持つること」、「強烈な関心が生じて来ること」が必要です。結局、ここでも、堂々巡りのような話になってしまいます。

結局、私は、子どもの頃のような「なぜ？」^{とくに問い合わせこそ、}人に考えることをさせ、人生を飽きさせないエネルギーの源^{だよ}だと思つてゐます。そして、その「なぜ？」は常識や、世間体や、「権威」にとらわれない素直な観察から生まれると思います。その「素直な観察」の基盤は「感性」です。

心に木を植える

近年、森林破壊、砂漠化、大気汚染、海洋汚染、有害化学物質の蓄積などなど、さまざまな「環境問題」が地球規模の問題になつていています。結局のところ、⑥すべての環境問題は、人間が地球上の物質とエネルギーを消費して文明を発達させ、物質的に豊かな生活を続けて来た結果の「ツケ」です。特に産業革命を経た一九世紀以降の科学・技術の急激な発達の結果を「文明砂漠」と表現し、自然環境だけでなく、極めて深刻な⑦人間の内部の環境破壊が進行しているという警鐘^{けいづらう}を鳴らし続けていたミヒヤエル・エンデ^{エンデ}は、ある本の中に「最近、常に環境破壊のことばかりが注目されているけれども、「心の荒廃」は環境の荒廃と同じように切迫していく、同じように危険なものである」と書いていました。

人は目に見える危機、目の前の危機にはある程度の対処ができるのですが、「心の荒廃」のように目に見えない危機、徐々に進行する危機には対処が難しいのです。エンデは「心の荒廃」に対抗するのに必要なのは「心の中に木を植えること」だといつています。

リンゴの花が満開の時期、私は安曇野の友人のリンゴ園を訪ねたことがあるのですが、可憐なリンゴの花を眺めながら、「木を植えるのはリンゴが欲しいからということだけではない。ただ美しいからという理由だけで植えることもある。何かの役に立つから、ということだけでなく、存在しているということが大切なのだ。」というエンデの言葉を思い浮かべました。

私は、「心に木を植えること」は、心の荒廃に対抗するばかりではなく、私たちの人生を豊かにするために根本的に必要なこと

のようと思えます。心の中に木を植えることが、本当の“勉強”的にも思えます。さまざまに、たくさんの木を植えれば、さまざまな、たくさんの木を植えることができます。

⑧自然を素直な気持ちで眺めることや世界の古典を読むことやさまざまな芸術に触れるなども心の中に植えるべき大切な木です。

心の中のたくさんの木は、豊かな、充実した人生を送るための力、つまり“人生力”的源です。しかし、“心の中の木”を育てることは簡単なことではありません。社会の“砂漠化”が進めばなおさらです。

(志村史夫『文系?理系?人生を豊かにするヒント』による)

※智慧：知恵。概略的：だいたい。あらましとして。マルチメディア：音声・映像・文字などを統合した、情報伝達の手段となるもの。

羅列：つらなり並ぶこと。ずらりと並ぶこと。多寡：多いことと少ないこと。

眞髓：物事の本質。

普遍的：すべてのものにあてはまるさま。

堂々巡り：同じことが何度もくり返され、少しも前に進まないこと。

厄介：あつかいに手間がかかつてめんどうなこと。

漫然とした：はつきりとした意識を持たない。とりとめのない。

萌して：起こって。生じて。

警鐘：警鐘を鳴らし続けていた：危険を予告し、注意をうながし続けていた。

荒廃：荒れすたれること。荒れ果てること。

切迫：非常にさしつけあること。

安曇野：長野県の地名。

可憐：いじらしくて、かわいいさま。

問一 (あ) ～(う) のカタカナを漢字に直し、漢字には読みをひらがなで書きなさい。

(あ) 利器 (い) カクダイ (う) シュウトク

問二 —— ①「自分自身による“想像”的な作業」とあります、その作業についての説明として最もよくあてはまるものは次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア テレビを見るときも文章を読むときも同じくらい必要とされる。
イ 文章を読むときもテレビを見るときも全く必要とされない。
ウ テレビを見るときのほうがテレビを見るときよりも必要とされる。
エ 文章を読むときのほうがテレビを見るときよりも必要とされる。

問三 熟語を構成する漢字の組み合わせ方にはさまざまな種類があります。たとえば、

ア 似た意味の漢字の組み合わせ

イ 意味が対になる漢字の組み合わせ

ウ 上の漢字が下の漢字を修飾する関係になる組み合わせ

エ 「…を」「…に」に当たる意味の漢字が下に行く組み合わせ

などです。このことをふまえて、各設問に答えなさい。

(一)――(2)「多寡」という熟語は、「おおい」という意味の「多」と、「すくない」という意味の「寡」の、イ「意味が対になる漢字の組み合わせ」で構成されています。――1「有無」、2「成否」、3「充実」、4「物心」のうち、意味が対になる漢字の組み合わせではないものを一つ選び、1～4の番号で答えなさい。

(二) 次に挙げる(1)～(4)の熟語の成り立ちは、それぞれ右のア～エのどれに当たるか、記号で答えなさい。

- (1) 温室 (2) 道路 (3) 帰国 (4) 苦楽

問四 空欄 X に入れるのに最もよくあてはまるものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 知識 イ 情報 ウ 智慧 エ 尊敬

問五――(3)「知識は大切です」とあります。それはなぜですか。文中の言葉を用いて答えなさい。

問六――(4)「“考える”ということ」に関するAさんとBさんのやりとりを読み、あとの各設問に答えなさい。

A.. 考えるということは難しそうですね。

B.. そうですね。考えることの難しさは「Y」に直結することです。

A.. 考えることは経験と知識を基に頭を働かせることだと本文にありますが、頭を働かせるというのがまたどういうことなのかを思いめぐらすと、筆者が「堂々巡りのよう」と言う通りこの問題は簡単には片付きそうにありませんよ。

B.. その経験もただとりとめのない経験では考える基本にはなりませんよ。

A.. どういう経験ならばよいのでしよう。

B.. 物と親身に交わり、P 経験でしよう。

A.. さらに筆者は考える原動力としてQ が必要だと言っています。知的な欲求や強い関心を持つことも大切なのですね。

(一) 空欄 Y には本文中の空欄 Y と同じ言葉が入ります。最もよくあてはまるものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

「知識を得ること」に比べ、「智慧を身につけること」が難しい」と

「想像力を身につけること」に比べ、「智慧を得ること」が難しい」と

「智慧を身につけること」に比べ、「知識を得ること」が難しい」と

「知識を得ること」に比べ、「情報を持つこと」が難しい」と

(二) 空欄 P・Q に入れるのにふさわしい言葉を、それぞれ本文中から十字で抜き出して答えなさい。ただし、記号をふくまないとします。

問七 アイウエ――⑤「以前」と最も近い使われ方の「以前」をふくんだ文は次のア～エのうちのどれですか、一つ選び記号で答えなさい。

ア 室町時代以前の美術品だ。 イ この文章は文学以前のつたない作品だ。

ウ 以前からお目にかかりたいと思つていきました。 エ ここに来る以前に書類は記入しておいた。

問八 アイウエ――⑥「すべての環境問題は、人間が地球上の物質とエネルギーを消費して文明を発達させ、物質的に豊かな生活を続けて

来た結果の“ツケ”です」とありますが、これと最も関係の深い四字熟語を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自業自得 イ 一石二鳥 ウ 我田引水 エ 朝令暮改

問九 アイウエ――⑦「人間の内部の環境破壊」を別の言葉で言い表した部分を、それよりあととの本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。ただし、記号をふくまないとします。

問十 アイウエ――⑧「自然を素直な気持ちで眺めることや世界の古典を読むことやさまざまな芸術に触れるなども心の中に植えるべき大切な木です」とありますが、「心に木を植える」とはどうすることか、どのようないいことがあると筆者は考えていますか。筆者が安曇野で思い浮かべたエンデの言葉(――「木を植えるのは…大切なのだ」)を参考にしてまとめなさい。

次の条件にしたがうこと。
・「心に木を植えるというのは、」に続く形で、百字以内で書く。
・「結果」という言葉を必ず用いる。